



きたみ おきやね
喜多見7丁目にあった置屋根形
式の土蔵で、浦野家は江戸時代末期
から油屋、炭屋等の商売を始め、
喜多見でも有数の資産家になったと
いわれています。

この土蔵の大きな特徴は、小屋の
はりぐみ うしぼり まが ぼり
梁組に牛梁と呼ばれる曲り梁を巧み
に用いているところです。江戸時代
末期より民家に曲り材を利用し、
大工の技倆を示す傾向が強くなりま
すが、当土蔵でも大胆に曲り材を
使用し、意匠的にも極めて優れた
ものになっています。



蔵内のようなす

きゆううらのけじゆうたくどぞう
旧浦野家住宅土蔵
世田谷区指定有形文化財